

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	ガソリンエンジン構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	42コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ガソリン・エンジンについて、各部の名称・役割と基本構造及び機能の概要を理解する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	エンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
7	電子制御装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	ジーゼルエンジン構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ジーゼル・エンジンについて、各部の名称・役割と基本構造及び機能の概要を理解する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	エンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
7	予熱装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、三級自動車ジーゼル・エンジン(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なジーゼルエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	55コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシについて、各部の名称・役割と基本構造及び機能の概要を理解する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	総論				
2	動力伝達装置				
3	アクスル及びサスペンション				
4	ステアリング装置				
5	ホイール及びタイヤ				
6	ホイールアライメント				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム及びボデー				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装品構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	40コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	電気装置について、各部の名称・役割と基本構造及び機能の概要を理解する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	電気と磁気				
2	半導体				
3	バッテリー				
4	始動装置				
5	充電装置				
6	点火装置				
7	灯火装置				
8	計器				
9	ボデー電装品				
10	冷暖房装置				
11	電気装置の配線				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、三級自動車ガソリン・エンジン三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	力学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車に用いられる力学及び物理法則や原理を理解し、計算方法を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各法則ごとに要点を解説し、練習問題に取り組む。				
2. 授業の計画					
1	力学で扱う物理量と単位・補助単位				
2	計算の基本(面積・体積等)				
3	速度(計算と単位変換)				
4	力とトルク				
5	ギヤ比、変速比				
6	遊星歯車の変速比				
7	圧力、パスカルの原理				
3. 使用教材(テキスト等)					
自動車整備士 計算の基礎と問題(公論出版)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
四則演算、一次方程式を解けるようにしておくことが望ましい。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車に関係する計算等の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	基礎自動車工学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車に用いられる材料・燃料・潤滑剤・製図に関する知識を習得する。				
◆概要	材料・燃料・潤滑剤・製図について教科書をもとに、それぞれの要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	自動車に使われる材料				
2	機械要素				
3	燃料				
4	潤滑剤				
5	製図				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績計画 の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績計画 の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
材料の使われているところ、燃料、潤滑油等の用途を覚え、実習の際に各部品の材質や使われている潤滑油等を確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、自動車に関係する材料、燃料、製図などの教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	エンジン整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ガソリン・エンジン本体と周辺の各装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	ガソリンエンジン本体				
2	潤滑装置				
3	冷却装置				
4	燃料装置(ガソリンエンジン)				
5	吸排気装置				
6	電子制御装置				
7	ディーゼルエンジン本体				
8	燃料装置(ディーゼルエンジン)				
9	エンジンに関わる定期点検整備				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ディーゼル・エンジン (日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	39コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシの各装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	動力伝達装置				
2	アクスル及びサスペンション				
3	ステアリング装置				
4	ホイール及びタイヤ				
5	ホイールアライメント				
6	ブレーキ装置				
7	フレーム及びボデー				
9	シャシに関わる定期点検整備				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装品整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	23コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各電気装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	バッテリー				
2	始動装置				
3	充電装置				
4	点火装置				
5	予熱装置(ジーゼル)				
6	灯火装置				
7	計器				
8	ボデー電装品				
9	冷暖房装置				
10	サーキットテストの活用				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ジーゼル・エンジン、三級自動車シャシ					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	整備機器		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	計測機器の各部の名称・正しい取り扱い方法・正確な数値の読み取り方を知る。				
◆概要	教科書及び実物を確認しながら、各機器ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	整備の基礎知識				
2	手持ち工具				
3	測定機器				
4	エンジン点検機器				
5	シャシ点検機器				
6	充電器				
7	清掃・洗浄作業機器				
8	給油作業機器				
9	昇降作業機器				
10	点検用機械工具				
11	検査用機械工具				
12	修正用器具				
13	外部診断機				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ジーゼル・エンジン、三級自動車シャシ					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、自動車の整備等で使用する工具・機器類の使用方法に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	自動車検査		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車整備事業に関連する法令について、主要な内容の知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、関係法令ごと・条文ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	自動車整備士技能検定制度のあらまし				
2	自動車に対する法規制の概要				
3	道路運送車両法				
4	道路運送車両法施行規則の別表				
5	自動車点検基準				
6	道路運送車両法の保安基準				
3. 使用教材(テキスト等)					
法令教材、基礎自動車工学、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ディーゼル・エンジン、(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、道路運送車両法の保安基準に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	資格取得・その他		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	80コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	【資格取得】自動車整備に関連する各種資格を取得する。 【就職活動】自らの希望に沿った企業から就職内定を得る。				
◆概要	【資格取得】各種資格ごとに講習の申込み手続きを行ない、受講して試験に合格する。 【就職活動】業界研究・企業研究を行い、受験する企業を決定したら応募書類を送付し、採用試験を受験する。				
2. 授業の計画					
1	【資格取得】研削といしの取替え又は取替え時の試運転 特別教育				
2	【資格取得】ガス溶接 技能講習				
3	【資格取得】アーク溶接 特別教育				
4	【資格取得】タイヤの空気充填 特別教育				
5	【就職指導】就職活動の進め方				
6	【就職指導】校内企業説明会				
7	【就職指導】採用試験受験の要点				
8	【資格取得】低圧電気取扱 特別教育				
9	【資格取得】有機溶剤 特別教育				
3. 使用教材(テキスト等)					
4. 成績評価の方法 資格取得状況及び出席状況、授業や就職活動への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準 4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意 【資格取得】【資格取得】とも「学生」ではなく「社会人」として、行動や言動には十分注意を払うこととする。					
7. その他 自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の作業で必要となる資格を取得するための教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	工作作業		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車整備の中で必要な工作作業を、安全かつ正確に実行できる技能を身に付ける。				
◆概要	基本的な計測作業と、工作作業を必要とする工具の製作を各自が行う。				
2. 授業の計画					
1	製図				
2	切断作業(弓のこ)				
3	研削作業(ヤスリ)				
4	寸法確認、直角度(ノギス、定盤、Vブロック) * 計測実習と併せて実施する				
5	ネジ立て加工(タップ、ダイス)				
6	穴あけ加工(ボール盤、ドリル)				
7	面取り加工(卓上グラインダ)				
8	曲げ、伸ばし加工(ガス溶接機) * 溶接機の操作は有資格者に限る				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車整備作業(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
工作機器の誤った使用方法がミスや怪我・事故につながることを十分に意識して作業を行うことを徹底させる。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の作業で必要となる工作機器等の正しい使用方法等の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	基本計測		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	45コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車整備の中で必要な計測作業を、迅速かつ正確に実行できる技能を身に付ける。				
◆概要	エンジンのオーバーホールに付随する、測定が必要な各種の点検作業を実施する。				
2. 授業の計画					
1	測定作業「ノギス」 * 工作実習と併せて実施				
2	直角度「定盤、スコヤ」 * 工作実習と併せて実施				
3	歪み点検「ストレートエッジ、シックネスゲージ」				
4	外径測定「マイクロメータ」				
5	振れ・曲がり点検「ダイヤルゲージ、Vブロック」				
6	内径測定「シリンダゲージ、キャリパゲージ」				
7	オイルクリアランス測定「プラスチックゲージ」				
8	当たり点検 * 光明丹を用いて実施				
9	バルブスプリングの点検「バルブスプリングテスタ」				
10	亀裂点検「染色浸透探傷試験」				
11	締め付けトルク管理「トルクレンチ」				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
計測機器は精密機器であることを注意喚起し、正しい使用方法と保守管理の手順を指導する。 この実習で使用しなかった機器類は、他の実習の中で適宜を指導を行う。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の作業で必要となる測定機器等の正しい使用方法等の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	エンジン整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	175コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エンジン本体と周辺の各装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	エンジン本体や各装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	ガソリンエンジン本体				
2	ガソリンエンジン燃料装置(キャブレータ、電子制御式燃料装置)				
3	ガソリンエンジン 電子制御装置(点火装置、燃料装置、センサ類)				
4	ディーゼルエンジン本体				
5	ディーゼルエンジン 燃料装置(インジェクションポンプ)				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ディーゼル・エンジン(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	287コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシの各装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	シャシの各装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	クラッチ／マニュアルトランスミッション				
2	トルクコンバータ／オートマチックトランスミッション				
3	プロペラシャフト／ドライブシャフト／ファイナルギア／ディファレンシャル				
4	アクスル／サスペンション				
5	ステアリング装置				
6	ホイール／タイヤ				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム／ボデー				
9	シャシ総合				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50点 ・レポートによる評価 40点 ・出席状況および授業に対する姿勢 10点					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科コード	MCH
-------	-----

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	140コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各電気装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	各電気装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	サーキットテスト制作				
2	ボデー電装(バッテリー/ヒューズ)				
3	始動装置				
4	充電装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎自動車工学、基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ディーゼル・エンジン (日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	自動車検査作業		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	28コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	法定点検(日常点検・定期点検)の実施手順と、安全で正確な作業方法を習得する。				
◆概要	道路運送車両法の点検基準に沿って実車を点検し、定期点検記録簿に結果を記入する。				
2. 授業の計画					
1	点検基準別表第2日常点検及び別表第6定期点検(12ヶ月点検)				
3. 使用教材(テキスト等) 自動車定期点検整備の手引き(日本自動車整備振興会連合会) 実習車両					
4. 成績評価の方法 ・試験による評価 50点 ・レポートによる評価 40点 ・出席状況および授業に対する姿勢 10点					
5. 成績評価の基準 4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意 実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他 自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車の定期点検の方法・判定基準等の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	ガソリンエンジン構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	33コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ガソリンエンジンについて、構造・機能の詳細及び電子制御に関する知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	総論				
2	ガソリンエンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
7	電子制御装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車ガソリンエンジン(日本自動車整備振興会連合会発行)					
二級ガソリン自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの原理の違いをしっかりと確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	ジーゼルエンジン構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ジーゼルエンジンについて、構造・機能の詳細及び電子制御に関する知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	総論				
2	ジーゼルエンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車ジーゼルエンジン(日本自動車整備振興会連合会発行)					
二級ジーゼル自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの原理の違いをしっかりと確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なジーゼルエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	40コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシについて、構造・機能の詳細及び電子制御に関する知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	総論				
2	動力伝達装置				
3	アクスル及びサスペンション				
4	ステアリング装置				
5	ホイール及びタイヤ				
6	ホイールアライメント				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム及びボデー				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装品構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	電気装置について、構造・機能の詳細及び電子制御に関する知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	半導体				
2	バッテリー				
3	始動装置				
4	充電装置				
5	点火装置				
6	計器				
7	警報装置・外部診断器				
8	空気調和装置				
9	配線・安全装置及び付属装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車ガソリン・エンジン、二級自動車ジーゼル・エンジン、二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	力学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車に用いられる力学及び物理法則や原理を理解し、計算方法を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各法則ごとに要点を解説し、練習問題に取り組む。				
2. 授業の計画					
1	バルブタイミング				
2	軸重(乗用車、トラック)				
3	排気量と圧縮比				
4	エンジン回転数と平均ピストンスピード				
5	エンジン回転数と変速比と車速				
6	加速度				
7	仕事と出力				
3. 使用教材(テキスト等)					
自動車整備士 計算の基礎と問題(公論出版)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
四則演算、一次方程式を解けるようにしておくことが望ましい。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車に関係する計算等の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	二輪自動車		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	二輪自動車について、二輪車特有の構造・機能及び電子制御に関する知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	エンジン				
2	補機類				
3	動力伝達装置				
4	アクスル及びサスペンション				
5	ステアリング装置				
6	ホイール及びタイヤ				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム及びボデー				
9	電子制御装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級二輪自動車(日本自動車整備振興会連合会発行)					
二級二輪自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの原理の違いをしっかりと確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な二輪自動車の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	エンジン整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ガソリン・エンジン本体と周辺の各装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、エンジン本体と各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	電動ファン				
2	外部診断機による診断				
3	回転センサ系統				
4	イグニッションコイル系統				
5	スロットルポジションセンサ系統				
6	水温センサ系統				
7	電子制御式スロットル装置系統				
8	フューエルポンプ系統				
9	インジェクタ系統				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級ガソリン自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
二級ジーゼル自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの原理の違いをしっかりと確認してから点検整備の違いを確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	26コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシの各装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	電子制御式AT				
2	CVT				
3	プロペラシャフト				
4	エアサスペンション				
5	油圧式パワーステアリング				
6	EPS				
7	タイヤの異常摩耗及び偏摩耗				
8	大型トラックのタイヤ				
9	エアブレーキ				
10	ABS				
11	エキゾーストブレーキ				
12	フレーム				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装品整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各電気装置について、整備の手順と作業上の注意事項を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、各装置ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	バッテリー				
2	始動装置				
3	充電装置				
4	警報装置				
5	空気調和装置				
6	配線				
7	安全装置及び付属装置				
8	外部診断器の活用				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車ガソリン・エンジン、二級自動車ディーゼル・エンジン、二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各部の名称はできるだけ覚え、実習の作業説明をスムーズに受け入れられるようにする。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	故障原因探究		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	40コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車に発現している不具合現象から原因を特定し、問題を解決するまでの手順を知る。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、手順ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	効率的な診断				
3	診断の基本				
4	故障診断の進め方				
5	問診				
6	現象確認				
7	原因の推定				
8	再発の防止				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級ガソリン自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
二級ジーゼル自動車(日本自動車整備振興会連合会)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの原理の違いをしっかりと確認してから点検整備の違いを確認する。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車の故障現象、故障原因等に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	法令		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	25コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車整備事業に関連する法令について、詳細な内容の知識を習得する。				
◆概要	教科書の内容を確認しながら、関係法令ごと・条文ごとに要点を解説し、ノートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	自動車整備士技能検定制度のあらまし				
2	自動車に対する法規制の概要				
3	道路運送車両法				
4	道路運送車両法施行規則の別表				
5	自動車点検基準				
6	道路運送車両法の保安基準				
7	自動車Nox・PM法				
3. 使用教材(テキスト等)					
法令教材(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
その法規が定められた背景を理解することと、できる限り図や表を用いて実物のイメージで理解することで、効率的に覚えることができる。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、道路運送車両法に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	エンジン整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	161コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エンジン本体と周辺の各装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	エンジン本体や各装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	ロータリーエンジン				
2	ガソリンエンジンの電子制御装置				
3	ディーゼルエンジンの燃料噴射装置				
4	シリンダヘッド脱着及びバルブクリアランス点検・調整				
5	エンジン脱着及びオーバーホール				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車ガソリンエンジン、二級ガソリン自動車(日本自動車整備振興会連合会発行)修理書					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的なガソリンエンジンの構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	196コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシの各装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	シャシの各装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	EPS				
2	車体整備				
3	模型を利用したシャシの理解				
4	塗装作業				
5	トランスミッション脱着				
6	CVT				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行) 各種単体教材、各種実習車両					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50点 ・レポートによる評価 40点 ・出席状況および授業に対する姿勢 10点					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な車体整備の教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	堀内	
科目名	電装整備実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	126コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各電気装置に関する整備の安全で確実な作業の手順と技能を習得する。				
◆概要	各電気装置を実際に、分解・清掃・観察・点検・調整・組立てし、レポートをまとめる。				
2. 授業の計画					
1	灯火装置及びウインドウレギュレータ				
2	予熱装置及び電子制御式燃料噴射装置				
3	空気調和装置				
4	ECU、各センサ及び計器、外部診断機の活用				
5	模型を利用した電気装置の理解				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車ガソリン・エンジン、二級自動車ジーゼル・エンジン、二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50点 ・レポートによる評価 40点 ・出席状況および授業に対する姿勢 10点					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
実習場で実車又は単体の装置で作業を行うが、重量物であるため各整備用の工具類、単体部品、車両の取り扱いには十分注意すること。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の実務経験を生かして、実践的な自動車電装品の構造や整備に関する教育を行う科目である。					

学科 <専攻>	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	資格取得その他		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	168コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	二級ガソリン及び二級ジーゼル自動車整備士技能検定試験(学科試験)に合格する。				
◆概要	過去の出題を中心に練習問題を解き、間違えた問題については、関連する内容を教科書等を調べてレポートにまとめる。				
2. 授業の計画					
1	三級ガソリン・エンジン過去問題(セクション別)				
2	三級ジーゼル・エンジン過去問題(セクション別)				
3	三級シャシ過去問題(セクション別)				
4	三級ガソリン・エンジン過去問題(総合)				
5	三級ジーゼル・エンジン過去問題(総合)				
6	三級シャシ過去問題(総合)				
7	二級ガソリン自動車過去問題(セクション別)				
8	二級ジーゼル自動車過去問題(セクション別)				
9	二級ガソリン自動車過去問題(総合)				
10	二級ジーゼル自動車過去問題(総合)				
11	二級ガソリン自動車模擬試験				
12	二級ジーゼル自動車模擬試験				
3. 使用教材(テキスト等)					
基礎工学、三級・二級自動車ガソリン・エンジン、三級・二級自動車ジーゼル・エンジン、三級・二級自動車シャシ、法令教材(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
習得状況及び出席状況、取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、C、Dを総合的に判断する。 レポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
個人での学習が主となるが、学生同士で教え合うことで新たな疑問を見つけたり理解を深めたりすることができるので、自分一人で進めようとしなことが重要。					
7. その他					
自動車整備士の経験を持つ教員が、自動車の点検整備、車検整備、一般整備等の作業で必要となる資格を取得するための教育を行う科目である。					